潜在看護師等
復職支援研修

受講者アンケート

知識技術・帰属意識など鍵

旭医大二輪草センター

旭医大二輪草センター（復職・子育て・介護支援センター）は、地域医療貢献を目的に実施している潜在看護師等が対象の「看護師と助産師のための復職支援研修」受講者アンケート結果をまとめた。回答者の9割以上が受講後に復職し、復職を決意し就業を継続するためには知識・技術の習得で不安を軽減する必要があるほか、看護職として帰属意識を取り戻し、同じ目的を持つ仲間と思いを共有することが鍵になるという結果が浮かび上がった。

センターは2007年度に設立され、復職支援研修、キャリア支援、子育て・介護支援、病後時保育の4部門体制で、働きやすい環境整備を行っている。復職支援研修部門では医師・看護師の自院復職はもちろん、潜在看護師と助産師を対象に旭医大病院への就職を目的としない（受講者は同病院に直接就職することはできない）参加無料の復職支援研修を10年度から実施している。

研修は毎年年度末に1回、計5日間実施しており、対象者は道内在住で復職を考えている未就業の看護師（助産師も13年度から対象）。10～15年度の6年間で41人（うち助産師5人）が受講し、年齢は20～60代、臨床経験ブランクは1～30年と幅広い。近年は常に定員（8人）を超える応募があり、旭川市内・近郊のほか、札幌、函館、道東などからも参加がある。

研修は、初日に最新の看護動向や周産期医療について講義し、2～3日目は看護技術を演習形式で学ぶ。4～5日目に病棟・外来実習を行い、修了者には学長名で修了証書が授与される＝表＝。講義だけでなく、実際に演習や実習に長い時間を割いていることが他にない特色となっている。

アンケートは今年1～3月、10～14年度5年間の受講者31人のうち宛先不明を除く27人に実施、20人（うち助産師4人）から回答を得た。現在就業している受講者は16人と8割を占め、就業したが退職したのは3人で、次の職場が決まっているという回答や出産のためなどの前向きな理由が多かった。就業していなかったのは1人だった。

研修の感想では「看護技術演習で知識・技術の学習ができた」「復職への一歩を踏み出す良い機会になった」と答えた人が多かった。看護部看護職キャリア支援職場適応支援担当の菊地美登里看護師は「ブランクがあっても手や体を動かすと、思っていた以上に覚えていたという声が多い」と語り、原口眞紀子看護部長も「実際に患者と向き合うことで、看護師としての自分を思い起こすきっかけにつながっている」と、演習や実習の意義を強調する。

アンケート結果の分析では、受講者は知識・技術の不足を最も不安に感じており、演習を通じて不安軽減と自信回復につなげていたほか、病棟実習で看護職としての帰属意識を取り戻し、ともに研修を受ける仲間との思いの共有が復職への意欲を高めていた。

さらに復職後は身体的負担や家庭との両立の困難さを感じながらも、人との関わりや社会とのつながりを持つことで、やりがい・充実感・喜びを得て就業を継続している状況が浮かび上がった。菊地看護師は「今後の研修では、交流の時間を増やすことも考えたい」と話している。

この研修のほか、同大看護部では市内・近郊の看護職を対象に、定年退職後も働き続けられるようにセカンドキャリアを考える交流集会を昨年から開催しているほか、二輪草センターの取り組みとして訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修を開くなど、地域医療への貢献を積極的に進めている。

看護師と助産師のための復職支援研修内容

日程	内容	担当
1日目 (9～13時)	講義・オリエンテーション ・医療看護の動向（看護師） ・周産期医療について（助産師） ・注射剤に関する基礎知識 ・医療安全対策 ・感染対策	職場適応支援担当 看護部長 副看護部長 薬剤師 専任リスクマネージャー 感染対策部長
2日目 (9～13時)	看護技術演習 ・救急蘇生法（BLS） ・静脈血採血　・静脈注射	救命救急センター看護師 看護職キャリア支援
3日目 (9～13時)	看護技術演習 ・無菌操作、尿道留置カテーテル ・注射　・輸液ポンプの取り扱い	看護職キャリア支援
4日目 5日目 (9～15時)	病棟・外来実習 研修のまとめ	看護師長 外来師長 職場適応支援担当